



令和3年9月28日

伊勢市教育委員会教育部
公民館長 浅井 信治 様

伊勢市立公民館運営審議会
委員長 斎藤 謙一

伊勢市立公民館事業評価の実施について（答申）

令和3年6月25日付け伊教教公発第000053号で伊勢市教育委員会教育部公民館長から諮問を受けました標題の件につきまして、別紙のとおり答申いたします。

公民館事業評価シート

事業名	少年事業 子どもの実験教室				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度			報償費72,000 委託料843,000 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費60,000 委託料827,340	
令和2年度			報償費108,000 委託料1,017,000 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費102,000 委託料912,112	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-1「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	身近な題材をとりあげ、ものを作り、遊び、学びの中で喜び創造を高め、学校、年齢をこえた仲間づくり。	持続可能な開発目標 (SDGs)			
事業内容	開催頻度	年間18回 (小学1～2年生：9回+小学3年生以上：9回) 土日開催			
	新規・継続	継続	実施主体	市・委託事業者	
	実施対象	市内在住・在学の小・中学生	参加者数	延187人	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	広報こまえ・市教育委員会ホームページ・市内掲示板・市公式SNS (Twitter, Facebook) への掲載による周知を行った。申込み開始直後に満員となるが多く、18回すべての総合的な申込み率は99%であった。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	委託事業者2～3名に加え、市民が2名協力者として参加者の監督・講師の指導補助を行った。新型コロナウイルス感染症対策のために定員を削減していることもあり、参加者の子ども2～3人に付き大人が1人付くことのできる体制で安全管理を行った。料理実習室では換気扇を稼働させ、換気も適切に行えた。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	実験をするだけでなく、学んだことを記録してもらえようように、参加者には専用のノートを配布している。2回目以降の参加時には持参してもらっているが、持参者が多く、リピーターの多さや学習意欲を感じる。参加者・見学した保護者から次回以降の実施日を確認されることも多く、ニーズがあると評価できる。		公民館 B	公運審 A
全体 A					
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	科学実験を通して、子どもたちに自然科学を楽しく学んでもらうことができた。また、学校や学年の違う児童とも実験を通じて交流することができる良い機会となった。子どもたちが公民館事業へ参加するきっかけにすることができたと考えられる。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
＜発展性＞ 参加者の学びの意欲を促進できたか	参加した子どもたちは板書や自分の観察した実験の内容のイラストなどを専用のノートに丁寧に書き写している様子が見られた。また、実験の内容によっては作成した物を持ち帰ることができ、自宅などでも試してみたり、復習することができたようだ。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 電話、窓口のみの申請受付かつ先着順だったため、仕事や子育てにより、申込みできない市民が潜在的に多くいたと考えられる。インターネットを活用した電子申請を今後導入し、先着ではなく多数抽選の形式とすることで、参加者にとって時間の制限なく、気軽に参加申込みできる環境を整える。 新型コロナウイルス感染症対策のために定員を縮小していることもあり、対面での参加人数に限りがあることから、今後は動画配信などの手法により、より多くの方に学びの機会を提供できるようにする。 アンケートを導入し、参加者の満足度をより客観的に評価できるようにする。 				
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 受付時にすぐに定員に達すること、継続した参加者が多くいることからニーズが高いことが伺える。 求めている方により多く参加していただける機会を創出することが必要である。 公民館において、理系分野の事業は少ないため、他事業でも展開できると良い。 学校とは違って、「テスト」のない公民館だからこそ、こういった教室は参加者の自発性をさらに促し、より深い理解・学習につなげることが出来る。今後も事業の発展・拡充に力を注いでいく必要がある。 				

公民館事業評価シート

事業名	少年事業 市制施行50周年記念事業「親子天文教室」				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度					
令和2年度			委託料173,000円	委託料172,975円	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	・子どもの知識、経験、創造力等の向上する ・市制施行50周年を記念する		持続可能な開発目標 (SDGs)		
事業内容	開催頻度	市制施行50周年記念事業のため、令和2年度の1回のみ			
	新規・継続	新規	実施主体	市・委託業者	
	実施対象	市内在住・在学の小中学生とその保護者	参加者数	29	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	10月1日号広報こま家で募集をかけ、わずか2日間という早さで申し込みが満員となった。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	公民館職員2名、委託業者2名の計4名体制で行い、参加者に対して、終始丁寧な案内ができた。ただ、参加者が多いこともあり、天体望遠鏡の数量が2台と限られていたため、順番待ちの待機者が多くなり、屋外の天体観測では少し密になる時間帯があった		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	アンケートで「とても良かった」が8割、「良かった」が2割と大変ご好評をいただいた。手作り望遠鏡のワークショップでは、子どもたちが一生懸命になってオリジナルの望遠鏡を作っていた。また、子どもだけでなく保護者からも満足した旨の感想を得られた。		公民館 A	公運審 A
全体 A					
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	子どもたちの知識や経験、創造力といったものを養う良い機会となった。また、開催当日はハロウィン、ブルームーン、マイクロムーンという3つの条件が重なる奇跡的な日程だったので、狛江市の市制施行50周年を記念するのにふさわしい1日となった。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
＜発展性＞ 参加者の学びの意欲を促進できたか	参加者が家に持ち帰れるツールとして、手作り望遠鏡キットのワークショップを開いた。ただ、さらに学びを促進できるようなきっかけとして、天文に関する本の紹介等があっても良かったと考えられる。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
今後の課題	今回の教室を通じて、星や惑星等の天文に関する講座の需要が利用者にとって非常に高いことが分かった。市制施行50周年を記念した特別な事業であったが、これを一過性のものとするのではなく、講座形式(座学や体験型等)問わず、来年度以降も天文に関する講座を開催できないか前向きに検討していきたい。				
総合評価	・参加者からのアンケートの回答結果をみても、非常に満足していただけたのが分かる。 ・天文に関するテーマの需要が高いことが分かったので、継続的に講座として取り扱うよう前向きに検討。 ・＜発展性＞において、授業の合間で天文に関する本の紹介や、図書館と連携した天文書籍のブースの設置等、子どもたちの意欲を掻き立てる仕掛け、取組みがあれば、さらに効果的な事業とすることができた。				

公民館事業評価シート

事業名	成人学習事業 連続講座「居場所というアポリア」				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度			報償費278,000 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費91,800	
令和2年度			報償費147,600 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費 0	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	「居場所」の実践と多様性に触れ直し、社会の中の居場所について考え、世代を超えた交流や仲間づくりができる機会の充実を図る。		持続可能な開発目標 (SDGs)		
事業内容	開催頻度	2か月に1回※平成31年度は5回			
	新規・継続	新規	実施主体	市・利用団体	
	実施対象	制限なし	参加者数	149名	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	周知に関しては、市内掲示板、市HP、市報を始め市Twitterにも掲載した。連続講座としての初回の年度であり比較対象がないため現状維持とした。		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	市民協働事業であったため、人員の不足は感じられない。また設備についても公民館の備品であるプロジェクター、スクリーンを使用し十分な内容であったが、連続講座として初回の年度であり比較対象がないため現状維持とした。		公民館 B	公運審 B
				全体 B	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	全6回（第6回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）で各回平均約30人程度の参加者があったため、一定のニーズがある講座であるとして評価する。		公民館 B	公運審 A
				全体 A	
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	市内の「居場所」に携わる方々を交流会を通して結びつけ、かつ教育大綱にある「世代を超えた交流や仲間づくり活動ができる機会」として、市内で居場所に携わる方々を交流会を通じて結び付けたことは成果と言える。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
＜居場所＞ 参加者にとって交流の場となり得るか	集い・学び・結ぶという公民館の果たすべき役割の実現のため「地域の中の居場所」を考える本講座で出会った参加者同士の交流が講座終了後も交流会を通じて行われている。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	平成30年度の「中央公民館のつどい」で実行委員会主催講座として開催し、その後地域の中で居場所に携わる方々が公民館長の呼びかけで繋がり、居場所交流会として発足、本講座を公民館と協働で実施した。今後については、更なる市民協働を進め、また居場所に携わる方々のみならず裾野を広げるために、一般の市民にも啓発を行い、居場所交流会に繋げていく必要があると考える。また、アンケートについては、受講者の満足度に関する項目等内容を精査する必要がある。				
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 講座後に参加者同士の交流が生まれており、公民館としての役割を果たしていると言える。 「アポリア」という言葉が分かりにくいので、周知する際はもう少し馴染みのある言葉に変えた方が良い。 定員50名のところ、約30名の参加があったことは良いことだが、関係者ではなくて、一般の参加者をさらに呼び込むことが出来るような工夫が必要である。 				

公民館事業評価シート

事業名	市民劇場 第23回西河原クリスマスコンサート				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成30年度			報償費20,000 需用費17,000	報償費19,800 需用費15,906	
平成31年度			報償費20,000 需用費17,000	報償費19,800 需用費14,996	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」施策6-②「芸術文化・スポーツの振興」方向性2「芸術文化活動の推進」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	市民が芸術文化を享受する機会を提供し、市民による文化創造を援助する。	持続可能な開発目標 (SDGs)			
事業内容	開催頻度	1回/年(12月中)			
	新規・継続	継続	実施主体	市・利用団体	
	実施対象	制限なし	参加者数	133名	
事業評価 ＜評価視点＞	評価項目	評価理由		評価	
	＜周知＞ 市民に周知されているか	11月に新規開設された狛江FMラジオに協力を依頼し、周知の協力を図った。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜環境＞ 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	舞台中央に配置するクリスマスツリーの経年劣化が見られたので、参加団体と協力し補修を行った。また、装飾品であるライトを交換することで、より豪華なクリスマスツリーを完成させることができた。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	＜満足度＞ 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	例年どおり参加者に対してアンケートを行った。9割以上の方々から好評をいただいたが、一部の方々から「参加団体のマンネリ化」等の指摘があった。		公民館 B	公運審 B
全体 B					
＜達成度＞ 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	市の音楽事業として、市民が身近に芸術文化に触れられる場の一つとなっている。参加団体においては、ベテランと若手の世代間交流がなされており、市の芸術文化の担い手の育成にも役立っている。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
＜芸術文化の機会＞ 芸術文化に触れるきっかけとなったか	・音楽団体に出演を依頼しており、出演者にとっても練習の成果を発表するための一つの場となっている。 ・ハンドベル、アカペラ、バンド、オーケストラと、幅広いジャンルの音楽を演目として提供できている。 ・毎年楽しみにしているリピーターも多く、冬の風物詩(イベント)としての役割を担っている。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
今後の課題	毎年、多くの参加者からアンケートでご好評をいただいているが、一部で「マンネリ化」についての指摘があった。現在、音楽団体5組と司会者1名に協力を依頼し上演しているところであるが、演奏曲やサンタイベントの演出等に変化を加えることで、できるだけマンネリ化を抑えられるように工夫を施していきたい。				
総合評価	アンケートでマンネリ化の指摘があったので、工夫をして改善できると良い。たとえば、参加団体を広報で募ったり、現参加団体と協議して他団体に声を掛けてみる等の方法が考えられる。また、運営体制についても、一人の公民館職員で担当するのではなく、複数人(チーム)で取り組む等、新しいアイデアが生まれやすい環境に変えていけると良い。この事業評価シートが、マンネリ防止につながるような取組みのきっかけとなることを期待する。				

公民館事業評価シート

事業名	こまえ市民大学 連続講座				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度	雑入180,000 ※受講料	雑入156,200 ※受講料	報償費1,342,000 需用費63,000 委託料286,000 使用料及び賃借料106,000	報償費926,000 需用費25,866 委託料278,070 使用料及び賃借料49,800	
令和2年度	雑入213,000 ※受講料	雑入56,200 ※受講料	報償費1,334,000 需用費63,000 委託料338,000 使用料及び賃借料106,000	報償費655,000 需用費34,198	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	市民の学習要求に対応し、様々な学習機会を提供する。	持続可能な開発目標 (SDGs)	 		
事業内容	開催頻度	年間24回(月に2回、土曜日開催) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、R2年度は計9回の開催			
	新規・継続	継続	実施主体	市・運営委員会	
	実施対象	市民	参加者数	延291人	
事業評価 〈評価視点〉	評価項目	評価理由		評価	
	〈周知〉 市民に周知されているか	およそ1ヶ月前に広報に掲載し、市内掲示板へチラシを掲示した。また、教育委員会ホームページでも掲載し、各回30名を超える申込みがあった。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	〈環境〉 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	運営委員会は職員3名、運営委員10名で次回講座予定などの企画調整を行った。講座当日は、職員1名と運営委員7名程度で会場設営、受付、片付け、消毒に取り組み、円滑な事業運営ができた。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	〈満足度〉 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	アンケート結果の8割以上が「大変よかった」または「よかった」と回答していた。また、講座当日の質疑応答でも「講義を聞いて良かった、また聞きたい」との声があった。		公民館 A	公運審 A
全体 A					
〈達成度〉 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	新型コロナウイルス感染症の影響により、前半は開講できず、開講後も定員を40名に縮小し、当初の見込み参加人数には届かなかったが、それでも毎回30名以上の申込みがあった。参加リピーターも多く、市民に対して定期的に学びの場を提供できていると言える。		公民館 B	公運審 B	
			全体 B		
〈学び〉 市民の学びの場として貢献できているか 生涯を通じて学びを提供できているか	毎回異なるテーマで講座を開講しており、幅広いジャンルについて学びの機会を提供できている。また、年齢層に偏りはあるものの、参加者のリピーターが多いため、生涯を通じた市民の学びの場としての機能していると言える。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度までは、立ち見が出る回もあるほど人気の講座となっていたが、新型コロナウイルス感染症に伴い、3密を避ける工夫を行わなければならなくなった。引き続き、感染対策を徹底した運営を行う必要がある。 講座テーマについて、若年層が興味を持つような内容を検討する。また、他市区町村の事例を調査する。 周知については、市内民間業者(鉄道会社や販売店等)に協力を呼びかけるといった工夫が必要である。 				
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 講座のアンケート結果からも8割以上が「大変よかった」または「よかった」と回答していたことから、事業に満足いただけていることが分かる。 新型コロナウイルスの影響もあり、事業中断の期間があったが、例年どおり多くの方に参加いただけた。 参加者の固定化、高齢化が見られるので、講座テーマの選定や開講時間の変更等の工夫により、新規参加者や若年層をもっと呼び込めるような取り組みを検討する必要がある。 				

公民館事業評価シート

事業名	情報学習事業 スマホ講座				
予算	歳入予算 (円)	歳入実績 (円)	歳出予算 (円)	歳出実績 (円)	
平成31年度			報償費167,200 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費88,000	
令和2年度			報償費167,200 ※当該事業に関連する項目のみ	報償費132,000	
事業の位置付け	根拠法	社会教育法、狛江市立公民館条例、狛江市立公民館条例施行規則			
	市の基本計画	狛江市前期基本計画 まちの姿6「生涯を通じて学び、歴史が身近に感じられるまち」 施策6-①「地域における学びの充実」方向性2「生涯を通じた学びの実現」 第3期狛江市教育振興基本計画 基本方針(4)生涯を通じた学びの充実 ①学びの環境づくり「地域の身近な場所で学ぶことができる環境の充実を図ります。」			
事業目的	西河原公民館のもつ機能を市民が生かし、活用できるようにする。	持続可能な開発目標 (SDGs)	 		
事業内容	開催頻度	年間2回(1回につき3日間)			
	新規・継続	継続	実施主体	市	
	実施対象	市内在住・在学・在勤のスマホ所有者	参加者数	延53人	
事業評価 〈評価視点〉	評価項目	評価理由		評価	
	〈周知〉 市民に周知されているか	10月15日号と1月15日号の広報こまえて募集をかけ、すべて当日で申し込みが満員となった。		公民館 A	公運審 A
				全体 A	
	〈環境〉 事業の実施に伴い、人員、設備、衛生面等は適切であるか	講師2名、補助として公民館職員2名の計4名体制で、スマホの操作に戸惑う方にはすぐ個別に対応できた。ただその個別対応のために、参加者とスタッフがしゅうぶんな距離を取れない場面もあった。		公民館 B	公運審 A
				全体 A	
	〈満足度〉 参加者にとって満足のいく内容であったか 利用者のニーズを反映できているか	初心者向けの講座で、ほとんどの参加者がスマホの電話やメール機能しか使えない高齢者だった。が、アンケートで「半歩前進した」「こんな機能があるんだと感心した」「QRコードなど、手に取りやすくなりそう」など、たくさんの好意的な評価をいただいた。		公民館 A	公運審 A
全体 A					
〈達成度〉 公民館が目的を達成できたか 市の課題解決に役立っているか	スマホに触ることに多少なりとも慣れ、アプリ使用に興味を持っていただくことができた。また、公民館の事業に初めて参加する人が半分以上だったことから、高齢者の社会参加を促すことができたと考えられる。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
〈発展性〉 参加者の学びの意欲を促進できたか	アンケートで今後の希望を聞いたところ、学びたい項目が多く挙がり、「次回もよろしく」「継続してください」などの感想を多くいただいた。また、スマホの基本操作から始まり、アプリのダウンロード方法や2次元コードの読み取り方等、参加者の多くが自分でできるようになり、講座を終えることができた。		公民館 A	公運審 A	
			全体 A		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPhoneとアンドロイドでは、操作方法や画面が違うことが度々あり、進行に時間がかかった。今後は別々に講座を実施することも検討する必要がある。 ・ スマホの操作方法だけではなく、市のホームページの見方や、図書館の電子書籍の借り方、公民館事業の電子申請のやり方等、行政サービスを踏まえた内容を講座に組み込み、相乗効果を図る。 ・ 講座中に個別対応が必要になることが多く、大人数での講座を実施できないが、できるだけ多くの方が参加できる方法を検討する。検討に当たっては、講座内容の質の維持のため、参加者数は少数に抑え、開講数を増やして多くの方に参加いただくやり方を重視する。 				
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募段階でかなりの申込みをお断りしていることから、スマホ講座のニーズが非常に高いことが分かった。 ・ 若年層と高齢者の情報格差が現在問題となっており、その格差を埋めるための本講座は、地域課題の解決に向けて取り組む公民館の本来の機能を十分に満たしており、大変重要な事業であると言える。 				